

**令和7年度
教育委員会の事務に関する点検及び評価報告書
(対象年度 令和6年度)**

**令和7年11月
朝日町教育委員会**

目次

1. 朝日町「教育に関する点検及び評価」について	1
2. 教育委員会の会議及び活動について	2
3. 主な事務事業と評価	
I 家庭・地域教育	5
II 学校教育	8
III 生涯学習	13
IV スポーツ	18
V 文化	23
4. 学識経験者意見	27

1 朝日町「教育に関する点検及び評価」について

1 趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条第1項の規定に基づき、教育委員会では、その教育行政事務の管理執行状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに公表する。

2 点検・評価の対象

点検・評価は、令和6年度の教育委員会の運営状況及び事務事業の執行状況を対象として実施した。

3 点検・評価の方法

点検・評価では、主な事業等の取組・進捗状況等により、課題等を分析し、今後の対応等を検討した。

また、点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する方々から、様々なご意見、ご助言をいただいた。

(50音順 敬称略)

氏名
石坂 博信
南茂 敬子
水島 友明

【参考】「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」抜粋

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務～～略～～の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 教育委員会の会議及び活動について

1 教育委員会の運営状況

(1) 教育委員等

委員等名簿（教育長 任期 3 年、委員 任期 4 年）（令和 7 年 3 月 31 日現在）

職名	氏名	委員就任期間・任期	備考
教育長	木村 博明	R06.04.01～R09.03.31	
教育長職務代理者	澤木 昇	R04.03.24～R08.03.23	
委 員	野坂 真澄	R05.03.24～R09.03.23	
委 員	勝田 民	R05.10.01～R09.09.30	
委 員	吉田 尚史	R06.10.24～R10.10.23	

(2) 教育委員会の開催状況

朝日町教育委員会は、定例会を毎月 1 回開催し、必要に応じて臨時会を開催しています。また、令和 6 年度においては、6 月に美術館及び文化財施設訪問（ふるさと美術館、まいぶん KAN）、11 月にさみさと小学校の学校訪問を実施しました。

①開催回数 定例会 12 回

②会議に付された主な案件

- ・教育委員会重点施策について
- ・リーディング DX スクール委託事業について
- ・新たな地域クラブ展開に向けた先行実証実施について
- ・第 5 次朝日町男女共同参画社会づくり計画について
- ・第 4 次朝日町生涯スポーツプラン策定について

③会議の開催状況

	主な審議内容
4 月定例会 (4 月 25 日)	<ul style="list-style-type: none">・令和 6 年度教育委員会事務局及び教育機関の組織について・令和 6 年度小中学校学級編成について・令和 6 年度小中学校管理職等一覧表について・朝日町小中学校児童生徒数の推移について・全国大会等出場結果について・リーディング DX スクール委託事業について・夏季及び冬季休業の学校閉庁について・校内教育支援センター「ココ・カラ」の開設について

5月定例会 (5月 28日)	<ul style="list-style-type: none"> ・第71回下新川郡民体育大会について ・第31回翡翠カップビーチボール大会について ・第41回全国ビーチボール競技大会について ・リーディング DX スクール委託事業について
6月定例会 (6月 25日)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年6月議会定例会の所管事項について ・生成AIを活用した公開授業等の開催について ・ふるさと美術館、まいぶんKANの町制施行70周年記念事業について
7月定例会 (7月 31日)	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと美術館、まいぶんKAN町制施行70周年記念特別展の見学 ・全国大会等出場選手について ・令和7年度国県予算に対する重要要望事項について ・令和6年度通学路合同点検について ・生成AIを活用した公開授業について ・令和7年度使用教科書の採択について
8月定例会 (8月 27日)	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議」及び部活動の現状について ・令和6年度朝日町政功労表彰受賞者について ・全国大会等出場結果について
9月定例会 (9月 27日)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年9月朝日町議会定例会の所管事項について ・冬季スクールバスの運行について ・14歳の挑戦、中学校体験入学について ・学校給食公式インスタグラムについて ・全国大会等出場結果について
10月定例会 (10月 23日)	<ul style="list-style-type: none"> ・第4次朝日町生涯スポーツプラン策定について ・全国大会出場結果について ・文化芸術関連事業について
11月定例会 (11月 12日)	<ul style="list-style-type: none"> ・朝日町美術展について ・生涯学習フェスティバル及びあさひ芸能文化祭について ・町民駅伝競走大会について ・第1回総合教育会議について
12月定例会 (12月 26日)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年12月議会定例会の所管事項について ・全国大会等出場選手について ・令和7年朝日町はたちの集いについて ・教育委員会の事務に関する点検及び評価報告書について ・学校運営協議会について ・国の部活動改革「中間とりまとめ」について ・総合教育会議議事録のホームページ掲載について ・令和7年度入学期日等の通知について
1月定例会 (1月 28日)	<ul style="list-style-type: none"> ・「日本ICT教育アワード」経済産業大臣賞受賞について ・新たな地域クラブ展開に向けた先行実証実施について ・令和7年朝日町はたちの集いの実施報告について ・町民スキー大会、郡民体育大会スキー競技会について ・令和6年度卒業式、令和7年度入学式について

2月定例会 (2月 27日)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度教育委員会関係予算案について ・令和6年度保小中一貫教育推進事業について ・全国大会等出場選手について ・令和7年度朝日町教育委員会重点施策について ・第5次朝日町男女共同参画社会づくり計画について ・第4次生涯スポーツプランについて
3月定例会 (3月 24日)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年3月議会定例会の所管事項について ・第77回優良公民館表彰（表彰館： 笹川公民館）について ・令和7年度朝日町教育委員会重点施策について ・第5次朝日町男女共同参画社会づくり計画について ・第4次朝日町生涯スポーツプランについて

(3) 総合教育会議の開催状況

地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、町長と朝日町教育委員会が円滑に意思疎通を図り、朝日町の教育の課題、今後の方向性等を相互に共有し、効果的に教育行政を推進するため、朝日町総合教育会議を開催しました。

【会議の開催状況】

第1回 R6. 11. 12	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校児童生徒等の支援及び学校における教員の働き方改革の推進 ・生成AIを活用した授業改善（中学校英会話）の実践 ・生成AIで描く町の未来（小5～小6）の取組事例 ・朝日町での小中学校児童生徒（小1～中3）の情報活用能力の育成について ・公開授業
-------------------	--

(4) 研修会等への参加

- ・R6. 7. 18 令和6年度富山県市町村教育委員会連合会総会及び研修会
独立行政法人教職員支援機構理事による講話「研修観の転換について」を聴講し、意見交換を行いました。
- ・R6. 10. 9 令和6年度富山県市町村教育委員会連合会第2回研修会
高岡市教育委員会事務局文化財保護活用課長による「高岡市の文化財行政の取り組みについて」のオリエンテーションを聴講し、勝興寺の視察を行いました。

3 主な事務事業と評価

I 家庭・地域教育

■施策目標

少子化が急速に進む当町にあって、子どもを取りまく環境の変化は著しい。保護者の子育てに対する考えは多様化し、家庭や地域社会の教育力の低下も問題となっている。

そこで、子どもの成長を支える基本的な生活習慣を身につけることを推進する。また、地域における人々とのふれあいや豊かで美しい自然を体験するなどの多様な活動を通して、子どもたちの心の豊かさや社会性を育む。

■取組み概要

- ①家庭・地域教育
- ②地域活動への参加

■主な事業実施状況

番号	施策又は事業名	事業内容等	決算額(千円)
①	就学時健康診断等の機会を利用した家庭教育に関する学習会	新1年生に入学する児童に対して、11月に開催している就学時健診時に、家庭教育に関する学習会を学校と連携して実施しました。	—
	朝日町児童クラブ連合会活動補助 (住民・子ども課主管)	子どもの健やかな心と体を育むため、親子や地域の方々との世代間のふれあいや交流の機会を増やす取組みに対して補助を行っています。 ◆会員数 222人（子ども152人、大人70人） ◆事業内容 6月 親子ふれあいフェスティバル 10月 子どもビーチ in ASAHI 1月 このゆびとまれ「国立立山青少年自然の家での宿泊学習」 2月 百人一首に挑戦！を実施。 ◆指導者研修については、参加者なしのため実施なし。	248
	子どもの居場所づくり事業 (住民・子ども課主管)	自治振興会では、多様な形で取り組む自主的な放課後等の子どもの居場所づくり事業を実施しています。 〈宮崎地区〉 開設日数 136日（4月～3月） ◆登録児童数 20人 延べ人数 1,296人 〈五箇庄地区〉 開設日数 120日（4月～3月） ◆登録児童数 21人 延べ人数 1,882人	1,294

	放課後児童クラブ (住民・子ども課主管)	保護者が昼間家庭にいない児童を対象に、自主性及び社会性の向上や、放課後における児童の安全な居場所づくりの確保を目指しました。 〈あさひ野っ子放課後児童クラブ〉 開催日数 241 日 ◆登録児童数 54 名 延べ人数 5,656 人 (さみっ子放課後児童クラブ) 開催日数 243 日 ◆登録児童数 88 名 延べ人数 6,956 人	11,153
	PTA連絡協議会活動補助	多様化、複雑化する社会構造の中で、子どもたちの「生きる力」を育み支えるPTA活動を推進するため、町PTA連合会が実施する活動に対して補助を行っています。	135
	とやま親学び講座	家庭、地域、学校、行政が協力して「親を学び伝える学習プログラム（親学び）」を推進しています。	—
②	三世代交流事業	豊かな自然・伝統文化に関する学習や地域の人々との交流を通して郷土に誇りを持ち、「朝日町を愛する子ども」を育成するため、各地区公民館にて、世代を超えて地区の伝統芸能の継承や清掃活動などの「三世代交流事業」を実施しています。 ◆10地区公民館	916

■成果と課題

① 就学時健康診断の際に、家庭教育に関する学習会を学校と協力して実施しており、今後とも、子どもの人間形成の基礎を培う家庭の教育力の向上を図っていきます。

児童クラブ連合会では、親子ふれあいフェスティバルや子どもビーチ in ASAHI、このゆびとまれ「国立立山青少年自然の家での宿泊学習」、百人一首に挑戦！を実施しました。

地域ぐるみの子育て支援策である「子どもの居場所づくり事業」は、宮崎、五箇庄地区の2地区で、自治振興会が主体となって実施されており、それぞれカルチャーセンターみやざき、五箇庄コミュニティセンター彩の里を放課後等に児童に開放し、地域の方に児童の遊びを見守る世話人となっていただき、放課後の児童の居場所を確保しています。

「朝日町放課後児童クラブ」は、町内各小学校校下で保護者が昼間家庭にいない児童を対象に、放課後における児童の安全な居場所づくりの確保や自主性及び社会性の向上を目的とし実施しており、さみさと小学校区の児童は児童館内施設、あさひ野小学校区の児童はあさひ野小学校のミーティングルーム等を利用し、宿題をしたり自由に遊んだり、スポーツ、将棋、工作教室などを行っています。

また、「児童クラブ連合会」、「子どもの居場所づくり事業」及び「放課後児童クラブ」については、住民・子ども課が主管となって事業を実施しており、今後とも住民・子ども課との連携を図り、児童生徒の健全育成に努めています。

町PTA連絡協議会では、町内の小・中合同による「朝日地区さわやか運動」、の実施や各種大会への参加等積極的に活動しております、今後とも補助を行っていきます。親学び講座は平成25年度から県がとやま親学び推進協議会を設置し、各市町村にとやま親学び推進リーダーやスーパーリーダーも配置されています。各小中学校において、推進リーダーやPTAと連携し、懇談会などで子育てについて講演会や保護者が

話し合い学ぶ講座を実施しました。

- ② 「三世代交流事業」については、各地区公民館で地域の伝統芸能の伝承を通して子どもから高齢者までの特色ある世代間交流を行っており、今後も取り組んでいきます。

II 学校教育

■施策目標

学校教育においては、知・徳・体の調和のとれた児童生徒の育成とともに、基礎的・基本的な知識・技能の習得や、思考力・判断力・表現力の育成及び学習意欲の向上が重要であることから各学校においてはこれらを総合的に育むと同時に、児童生徒、保護者、地域の期待に応えることのできる学校を目指し、開かれた学校づくりを推進していく。

■取り組み概要

- ①学校施設等の整備・充実及び安全対策の実施
- ②就学援助の充実
- ③特色ある学校づくりと創意ある教育課程の展開
- ④不登校児童生徒対策の推進
- ⑤児童・生徒の健康及び安全の充実
- ⑥教育研究の推進及び教職員研修の充実

■主な事業実施状況

番号	施策又は事業名	事業内容等	決算額(千円)
①	学校施設整備補修事業	児童生徒の安全を第一とし、校舎の修繕をはじめ、時代に即した教育環境の整備を図るとともに、児童生徒が楽しく、安心して学校生活が送れるよう施設設備の安全管理に努めました。 ◆小学校：2校 28件 ◆中学校：1校 23件	5,421 3,898
	学校管理・教材教具整備事業	管理用備品・教材用備品・特別支援学級用備品・給食用備品・健康管理備品等の整備 ◆小学校 ◆中学校	9,754 1,547
	スクールバス運行事業	◆小学校：中型バス 2台 マイクロバス 4台 ◆中学校：マイクロバス 1台 ◆運転手：11人 ※冬期はマイクロバス 2台を追加	18,222 5,417
②	準要保護児童生徒就学援助 特別支援教育就学奨励	教育機会の確保を図るため、就学が困難な児童生徒の保護者に対して必要な援助を実施しました。 ◆令和6年度： 援助費 小35名 中28名 奨励費 小12名 中2名 入学前支給 小1名 中9名	小：1,434 中：2,628
	加藤・森島奨学金給付	高校生及び大学生への奨学資金制度の有意義な運用に努め、将来地域を担う人材の育成を図りました。 ◆令和6年度：高校生5名、大学生等1名	660

	小中学校給食費無償化	町内の小中学校に通う児童生徒の給食費を無償化しました。	小：22,644 中：15,205
	体操服支援事業	子どもの心身の健全な育成を図るため、体操服購入に対する支援を通じて、子育て世帯の負担軽減を図りました。 ◆あさひ野小学校新1年生 10人 さみさと小学校新1年生 41人	979
	地域講師活用事業	地域の人材を講師に招聘して、将棋等クラブ活動や総合的な学習の時間、生活科の時間、いのちの授業等の充実を図りました。 ◆令和6年度：地域講師 あさひ野小：いのちの授業、地域講師 さみさと小：いのちの授業、クラブ活動 朝日中：性指導	小学校 20 中学校 10
	学校運営協議会	保護者や有識者、地域住民に委員として参画していただき、学校運営方針や地域学校協働活動支援部会における活動について協議しました。 ◆学校運営協議会委員…13名 会議…3回	57
③	保小中一貫教育の推進	小1プロブレム、中1ギャップを解消するため、相互乗り入れ授業や毎月1回保育園と小中学校の所長・校長会を開催し、連携・推進を図っています。 ◆合同音楽会 ◆保小中連携教育推進委員会…2回 保小中一貫教育の学校行事、ふるさと学習等について協議しました。	300
	地域学校協働本部の運営	◆地域学校協働活動推進員…4名 町の歴史や自然、文化などふるさとを学ぶ授業における講師について、学校と地域人材の方々の調整役を担っていただき、教員の負担軽減やふるさと科の授業の推進をしました。	1,321
	観察実験アシスタント派遣事業	小学校の理科の観察・実験を支援する補助員の派遣	66
	小学校英語活動推進事業	英語教育非常勤講師の配置 (あさひ野小学校、さみさと小学校)	1,174
	外国青年招致事業	外国語指導助手（ALT）の配置	6,159

	14歳の挑戦事業	規範意識や社会性を高め、将来の自分の生き方を考えるなど、成長期の課題を乗り越えるたくましい力を身につけることを目指し、学校外で職場体験や福祉・ボランティア活動などを行いました。 ◆朝日中学校2年生（47名） 協力事業所：22箇所	153
	スポーツエキスパート派遣事業	部活動においてスポーツエキスパート事業を活用して、顧問と指導者が連携を図りながらスポーツの専門的な技術指導を行いました。 ◆指導者：4名 朝日中学校：バスケットボール、バドミントン、陸上、柔道	176
	スタディ・メイト配置事業	特別支援スタディ・メイトの配置（12名）を図りながら、特別な支援が必要な児童生徒への教育体制を整備して、個々の実態に応じた適切な教育を推進しました。	小：7,337 中：2,642
	学力向上支援サポート事業	朝日中学校において、大学との連携・協力のもと大学生の教員志望者や教員OBを「学習サポーター」として活用する学習活動サポート事業を実施し、学習相談やつまずきの解消、学習意欲の向上を図りました。 ◆学習サポーター：7名 登録生徒数：54名	1,024
④	教育支援センター運営事業	教育支援センター「あすなろ」に指導員を1名配置し、不登校児童生徒に対し、適切な指導及び助言を行いました。	1,153
	校内教育支援センター運営事業	学校には行けるが、自分のクラスには入りづらい、気持ちを落ち着かせてリラックスしたい児童生徒の居場所づくり、学習機会の確保、また、保護者の相談の場として、校内教育支援センター「ココ・カラ」を開設しました。	150
⑤	児童生徒・教職員健康管理事業	小・中学校の1年生を対象に心電図による心臓検診、中学生に貧血検査、小学校5年生及び中学校1年生を対象に専門医による脊柱側わん症検診を実施し、児童生徒の健康保持に努めました。また、教職員に対し、成人病検診及びストレスチェックを実施しました。	小：1,932 中：1,166
	スクールガードリーダー配置事業	教員OBに委嘱し、各小学校を巡回し、安全対策の指導や不審者のパトロールを行いました。	74

⑥	教育センター運営事業	教職員研修、教材の開発、学習活動研修等を実施した他、保護者からの教育相談（9件）にも当たりました。 ◆小中学校教育講演会…1回 民間の教育関連会社による探究的な学びについての研修会を行いました。	6,963
	内地留学派遣事業	あさひ野小学校教諭1名を3箇月間大学に派遣しました。	216

■成果と課題

① 児童生徒の1人1台タブレット端末、電子黒板の導入などICT環境の整備をはじめこれらの活用、また、ICT支援員の配置等により、一層のICT教育の推進に努め、活用が浸透しました。さらに全校にAI学習ドリルを導入し、またアクティブラーニング室を設置するなど、個別最適な学びと探究的な学びを推進し、令和5年度には文部科学省リーディングDXスクール事業の指定校としてタブレット端末におけるクラウド活用や校務に生成AIを取り入れた教員の働き方改革等、教育DXの取り組みに努めました。これらの取組が認められ、全国ICT教育協議会会长賞、令和6年度には日本ICT教育アワード経済産業大臣賞を受賞いたしました。

スクールバスについては、通年のスクールバスのほかに熊対策のため、12月からの冬期のスクールバスをくまバスとして10月に前倒しして運行し、登下校時の安全確保に努めました。

② 教育機会の確保を図るため、準要保護や特別支援教育を受ける児童生徒の就学への援助や奨励を行うとともに奨学金制度の周知と適正な運用を行い、地域を担う人材の育成に努めました。

子どもの心身の健全な育成を図るため、体操服購入に係る支援をはじめ、小・中学校の給食費無償化を継続し、子育て世帯の負担軽減に努めました。

③ 校区の特徴や地域の伝統文化を生かすなど、特色ある学校づくりを目指し、令和4年度から朝日町保小中一貫教育、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進の取り組みを開始しました。

朝日町保小中一貫教育では、小プロブレム、中1ギャップの解消を図るため、小中学校間の教諭の相互乗り入れ指導や、保小中合同音楽会、小学校6年生による中学校体験入学の実施を行いました。これらの事業の成果が認められ、第54回（2023年度）「博報賞」の奨励賞を受賞いたしました。

コミュニティ・スクール（学校運営協議会）では保護者や有識者、地域の方々にも学校運営に参画していただき、学校と地域が一体となって、学校運営方針や部活動、スクールバスの運行等、また小中学校の下校時刻の繰り上げについても協議し、教員の長時間勤務解消につなげました。

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進では、町独自の教科「ふるさと科」を設け、優れた知識・技能をもった地域の人材による教育活動の充実と教育効果の向上を図る取組が認められ、令和4年度、文部科学大臣表彰を受賞し、一層の推進を図っています。

今後も郷土を愛する児童生徒の育成のためにも地域人材の方々との連携の強化と事業の推進に努める必要があります。

小学校の外国語活動においては、外国語指導助手（ALT）や非常勤講師として委嘱した英語指導員から「聞く・話す」を中心に英語を使ってコミュニケーション

を図ることの楽しさを知るとともに、言語や文化に慣れ親しむ学習の充実に努めました。令和6年度には、小中学校の英会話（特に話す力の強化）練習に、生成AIを活用し、自己調整しながら学習を進めるなど、授業改善をしました。

スタディ・メイト配置事業では、特別な支援が必要な児童生徒への教育体制を整備し、個々の実態に応じた適切な教育を推進しました。学校からの配置要望も多いため、今後もスタディ・メイトの人材の確保と育成を図る必要があります。

学力向上支援サポート事業においては、教員を志望している大学生や教員OBを学習サポーターとして活用し、中学校において3年生に加え、令和4年度から2年生も対象とし、生徒の学習上のつまずきの解消や学習意欲の向上を目的とした学習支援を行いました。参加生徒の人数や各生徒に対応する時間を考慮し、学習サポーターの人材確保に努める必要があります。

- ④ 教育支援センター運営事業においては、不登校及び不登校傾向にある児童・生徒に対し適切な指導及び助言を行うことを目的として、教育センター内にある教育支援センター「あすなろ」に指導員を配置し、児童生徒の学校復帰への支援を行えるよう努めました。

また、令和6年度には不登校児童生徒対策として、学校には行けるが、自分のクラスに入りづらいとき、気持ちを落ち着かせてリラックスしたいときに利用できる居場所として、各小中学校に校内教育支援センター「ココ・カラ」を開設しました。

- ⑤ 小・中学校の1年生を対象に心電図による心臓検診、中学生に貧血検査を実施し、児童生徒の健康保持に努めました。特に、心疾患等が疑われる児童生徒に対しては、全教職員がこれらの情報を共有し、安全に学校生活が送られるよう努めました。また、児童生徒及び教職員に対し、麻しんの罹患歴や予防接種歴の調査を行い、把握に努めました。さらに、小学校5年生と中学校1年生を対象に専門医による脊柱側わん症検診を引き続き実施し、専門医による詳細な検診の実施により、脊柱側わん症疑いの早期発見に努めました。29年度からは、教職員ストレスチェックを実施し、教職員のメンタルヘルス不調の予防に努めました。

養護教諭が行事や出張等で不在の時には、応急処置の対応及び指導ができる臨時職員を今年度も派遣し、児童生徒が安心・安全な学校生活を送ることができるよう努めました。

食物アレルギーについては、就学時健診の機会や進級時に調査票等で実態把握に努め、学校給食で配慮が必要な児童生徒については、保護者と個別面談を実施し、児童生徒の症状やアドレナリン自己注射薬（エピペン）保持の状況、給食対応の内容等の情報の共通認識に努め、除去食や代替食の対応を行いました。また、緊急時の対応に備え、消防機関等と情報を共有し連携を図りました。

学校においては、施設設備の安全点検、通学を含めた学校生活や日常生活における安全指導、職員の研修などを実施しました。危機管理マニュアルの内容確認を行うとともに児童生徒には日々の生活の中で危険を予測して、安全な行動がとれるように危険回避能力の育成を継続的に行う必要があります。

犯罪等の危険から児童生徒を守るため「こども110番」の家の周知や、スクールガードリーダーによる巡回を行うとともに、不審者情報等については、安全情報メールを保護者に通知するなど安全で安心できる環境づくりに努めました。

- ⑥ 郷土を愛する児童生徒の育成のため郷土の自然文化や社会など地域に根ざした教育を進める研修に努めました。児童生徒の実態や地域の特色を踏まえた校内研修や、実践的な指導力を高める研修の継続が必要です。

教員の資質の向上については、教員一人ひとりが使命感や倫理観、人間性を高めるとともに県や関係機関と連携を図りながら研修等を実施し、教師の質の向上を図っていく必要があります。

III 生涯学習

■施策目標

町民一人ひとりが、自己の人格を磨き、豊かな人生を送るため、その生涯にわたって生きがいや健康の保持・増進、生活の質的向上を目指す積極的な学習活動を支援し、自主的な学習への意欲を喚起する。

1 生涯学習の推進

■取組み概要

- ①学校教育との連携
- ②生涯学習団体の育成と連携
- ③生涯学習施設・環境の充実

■主な事業実施状況

番号	施策又は事業名	事業内容等	決算額(千円)
①	JFA「夢の教室」	子どもたちに、「夢を持つこと」や「仲間とのつながり」の大切さを伝えることを目的に日本サッカー協会の協力を得て、こころのプロジェクト「夢の教室」事業を実施しました。1月22日に朝日中学校において元プロサッカー選手の廣井友信氏を、2月12, 13日にあさひ野小学校、さみさと小学校に元プロバスケットボール選手の三木聖美氏を招いて実施しました。 ◆実施学校等：さみさと小学校5年生2クラス あさひ野小学校5年生1クラス 朝日中学校2クラス	610
	朝日町高等学校海外研修事業	教育、学術・文化・スポーツなどの分野における交流、視察を通じて、生徒の学力、資質の向上につながる海外研修に対し、町より補助金を交付しています。	0
	学校への図書司書の派遣	小・中学校で必要な本の選書、台帳整理のほか、児童・生徒から質問等に対応するなど、読書に親しむ環境づくりのために、各小学校にそれぞれ週2日・中学校へ週1日、図書司書を派遣しました。	1,969
	友好都市交流事業	友好都市岩手県釜石市立釜石東中学校2年生23名、朝日中学校1年生71名がオンラインによる交流・ふれあいを通じて相互の理解と将来に向けた友情を育むことを目的に実施しました。	—
②	生涯学習支援事業	少子高齢化の進展やライフスタイルが多様化する中で、心のゆとりと自己の充実を図り、豊かな生活の実現のため、各種の講座・教室を開催しました。 ◆公民館講座 10地区 1,948千円 ◆公民館シニア知的生活教室 9地区 632千円 ◆町民講座 130千円 ◆ふるさと教育事業 255千円 ふるさと体験(7,8月 参加者68人)、スタンプラリー(達成者67人)、ふるさと検定(表彰者13人)	2,965

	生涯学習フェスティバル	<p>生涯学習の推進を図るため、生涯学習団体の育成と相互の連携を推進する事業として、「生涯学習フェスティバル」を開催しました。</p> <p>町内で活動している生涯学習団体による、俳句、折り紙、絵手紙、押し絵、パッチワーク等の作品のほか、バルーンアート等体験コーナーも実施しました。</p> <p>◆実施日 11月 9日・10日</p> <p>◆参加団体 17団体 来場者 791人</p>	82
③	早稲の香俳句会事業	<p>社会の変化に主体的に対応できる個性豊かな人づくりを図るため、学校教育と生涯学習の連携を推進する事業として、「早稲の香俳句会」を実施しました。</p> <p>俳句会では、実行委員が講師となり、小学校で俳句の授業を行う「出前講座」や、奥の細道の名句を20句覚える「暗誦運動」の取組みを行いました。</p> <p>また、町に縁のある芭蕉に因んで小学生、中学生、高校生、一般から俳句を募集しました。</p> <p>◆投句数：563句</p>	216
	一般図書、児童図書の整備	<p>昨年に引き続き、一般図書、児童図書の整備を実施しました。</p> <p>◆年間図書館来館者数 62,408人（前年 58,692人） ・図書購入 2,339冊 ◆保有図書数 135,852冊</p>	4,571

■成果と課題

- ① JFA「夢の教室」については、子どもたちに、「夢を持つこと」や「仲間とのつながり」の大切さを伝えることを目的に、日本サッカー協会の協力を得て、こころのプロジェクト「夢の教室」事業を実施しました。朝日中学校には元プロサッカー選手の廣井友信氏を、あさひ野小学校、さみさと小学校には元プロバスケットボール選手の三木聖美氏を招いて実施しました。子どもたちが夢を持ち、心豊かに成長していくよい機会となっている。今後は小学校において事業を継続していきます。
 学校における図書司書の配置については、各小学校にそれぞれ週2日・中学校に週1日派遣し、本の選書、図書台帳の整理、本の修理を行うとともに、生徒からの質問に対応したことにより、それぞれの学校において図書館を利用する児童・生徒が増えました。また、小学校では読み聞かせを実施しており、引き続き、図書に親しむ環境づくりに努めたいと考えています。
- ② 町からの委託事業である公民館講座、公民館シニア知的生活教室については、各地区公民館において、自己啓発や健康につながる活動が活発に開催されました。今後とも地域住民の学習ニーズや地域の実情に応じた講座や教室が行なわれ、生涯学習の意欲が高まるよう各地区公民館と連携していきたいと考えています。
 「生涯学習フェスティバル」については、サンリーナ大規模改修工事に伴い、初めてあさひコミュニティホールアゼリアにて開催しました。町内で活動している生涯学習団体の活動発表の場として、俳句、絵手紙、押し絵、等の作品を展示しました。また、親子電気教室、バルーンアート、児童クラブのワークショップを実施しました。
- ③ 「早稲の香俳句会」については、俳句を通じて地域の歴史に親しみ個性豊かな人づくりの機会となっております。今後とも、子どもたちの俳句への興味が増すよう

に、趣向を凝らした事業の展開を図っていきます。

図書館では、定期的に絵本や紙芝居の読み聞かせを実施しています。また、平成29年度に開始した読書通帳サービスは、読書記録として活用され、開始から累計1,234冊の通帳を発行しており、読書意欲向上に繋がっています。また平成30年度に開設したまつくり文庫は「子どもたちの健全な育成と成長のために」という、松倉利喜氏のご意志を基に、絵本や児童書を中心に、中高生向けのヤングアダルト図書、子育てを行う保護者のための育児書等をこれまでに1,600冊以上を配架しました。令和4年度には、まつくり文庫の図書を入れるための書架を配置しました。この文庫は通常利用のほか、町内小中学校にも団体貸出されています。今後も利用者の要望に沿った図書の整備や住民へのPRを工夫し、利用の拡大を図っていきます。

2 家庭・青少年教育の充実

■取組み概要

- ①学習機会の提供
- ②世代間交流の促進
- ③青少年の健全育成の促進
- ④生涯学習団体との連携

■主な事業実施状況

番号	施策又は事業名	事業内容等	決算額(千円)
①	家庭教育に関する学習会	※「I 家庭・地域教育」の「①家庭・地域教育」に記載。	—
②	三世代交流事業	※「I 家庭・地域教育」の「②地域活動への参加」に記載。	—
③	はたちの集い	満20歳を迎えた青年が大人になったことを自覚するとともに、希望に燃える門出となるよう式を挙行しました。 ◆成人者数：101名 ◆参加者数：88名	620
	有害図書等の立入調査 (住民・子ども課主管)	有害図書等・有害情報への対応として、年に1回、警察等関係団体とコンビニエンスストア、書店・DVD等レンタル店、携帯電話販売店に立入調査を実施しました。	—
	青少年育成朝日町民会議 (住民・子ども課主管)	町内における青少年の健全育成のため、育成支援に対する啓発活動や、学校の休業日における、非行を防止するため巡回活動に取組みました。 6月 全体会議 夏休み・あさひまつり・冬休み・春休み巡回、 11月啓発活動	—

	<p>朝日町「社会を明るくする運動」推進委員会 (住民・子ども課主管)</p>	<p>犯罪や非行の防止、罪を犯した人たちの更正について理解を深め、犯罪や非行のない明るい地域社会を築くための活動を「社会を明るくする運動」推進委員会を中心実施しました。</p> <p>7月 研修大会 内閣総理大臣メッセージ伝達 泊駅、「アスカ」街頭宣伝</p>	—
--	---	--	---

■成果と課題

- ① 家庭教育に関する学習については、※「I 家庭・地域教育」の「①家庭・地域教育」に記載。
- ② 三世代交流事業については、※「I 家庭・地域教育」の「②地域活動への参加」に記載。
- ③ 「はたちの集い」は、満20歳を迎える方から運営委員を募り、企画・運営から式典まで携わり、成人式に代わるものとして厳粛に行われています。今後も成人者と連携し、青年の新しい人生の門出を祝福するとともに、成人としての自覚を促すはたちの集いを実施していきます。

現在、青少年を取り巻く環境は、少子化、情報化、国際化等の進行や貧困やヤングケアラーの社会問題化など複雑・多様化な状況にあります。こうした青少年を取り巻く社会環境の中で、青少年の健全な育成が図られるよう関係課局や諸団体と連携強化に努めています。

3 男女共同参画社会の推進

■取組み概要

- ①男女平等意識の啓発
- ②家庭・地域への男女共同参画の推進
- ③参画のための社会環境整備

■主な事業実施状況

番号	施策又は事業名	事業内容等	決算額(千円)
①	男女共同参画社会づくり推進事業	「女性活躍推進法」や「DV防止法」の趣旨を反映するとともに、社会情勢や町民意識の変化に対応するため、これまでの取り組みや成果と課題を踏まえ、男女共同参画の意識が確立することを目指し、「第5次朝日町男女共同参画社会づくり計画」を策定しました。	333

② ③	富山県男女共同参画推進員朝日町連絡会にて推進員の育成	男女が家事・育児・介護などを共に担う家庭内の共同参画を進めるとともに、地域においても男女が等しく意見を出し合い取り組む活動を推進するため、家庭や地域における実践的活動の中心となるよう、富山県男女共同参画推進員の育成を図りました。 定例会等 6回 広報誌「チャレンジ」の発行 1回	—
--------	----------------------------	---	---

■成果と課題

- ① 令和6年度は「女性活躍推進法」や「DV防止法」の趣旨を反映するとともに、社会情勢等の変化に対応し、男女共同参画の意識が確立されていくことを目標として「第5次朝日町男女共同参画社会づくり計画」を策定しました。
- ② 男女共同参画についてより理解を深めていただくとともに、推進員の活動内容を広く知っていただくことを目的に、広報誌「チャレンジ」を発行し、また、生涯フェスティバルにて掲示をするなどし、広く男女共同参画の啓発・普及に努めました。
- ③ 女性の社会進出、少子・高齢化、家族形態や地域社会の多様化などが一層進み、社会を取り巻く環境は大きく変化をしています。しかしながら、男女共同参画のための社会環境については、依然として性別による役割分担意識が社会慣習の中で残っており、こうした状況に対応していくため、今後も継続して男女共同参画を推進する必要があります。男女がともに個性と能力を認め合う「男女共同参画社会」の実現には、事業者、関係機関・団体、行政、そして町民一人一人が、その必要性を理解し、連携・協力しつつ、積極的な取り組みを進めていくことが重要であることから、意識、固定観念を把握し、町と町民、事業者等が一体となって取り組めるよう努めます。

IV スポーツ

■施策目標

健康スポーツの推進と子供のスポーツ活動や競技スポーツの充実を図るため、町民が継続的にスポーツに取り組める環境づくりに努め、総合型地域スポーツクラブの育成をはじめ、各種スポーツ団体の活動を支援する。

1 生涯スポーツ社会の実現

■取組み概要

- ①健康スポーツの推進
- ②スポーツ活動を支える指導者・組織の充実
- ③スポーツ情報の提供
- ④子供の体力向上
- ⑤地域と連携した部活動の在り方

■主な事業実施状況

番号	施策又は事業名	事業内容等	決算額(千円)
①	地区体育大会(体育祭)開催補助	新型コロナウィルス感染拡大防止等により、中止した地区はあったが、8地区で実施 8地区 3,231名	240
	三世代交流スポーツ事業	地域間・世代間のスポーツ交流の充実を図りました。 ◆三世代交流 7地区 575名	330
	町民大会等補助金	町民が積極的・主体的にスポーツに取り組む機会を確保するため、町体育協会にスポーツ大会事業を依頼しました。 ◆14種目 1,158名	1,200
	地域スポーツ教室開催	スポーツ推進委員による教室を開催し、スポーツに親しむ機会の充実を図りました。 ◆小中学生ビーチボール教室 3回 参加者延べ125名 ◆いきいきスポーツサロン4回 参加者延べ35名 ◆にこにこスポーツ広場8回 参加者延べ259名	98
	まめなけ！あさひスポーツデー開催	「スポーツの日」に町民が気軽に参加できるスポーツイベントの実施 1,000名	928
	スポーツ大会開催事業	全国ビーチボール競技大会及び翡翠カップビーチボール全国大会、学生ビーチボール交流大会を開催し、その普及とスポーツ参加の機会づくりに努めました。 ◆全国ビーチボール競技大会 229チーム、1,115名 ◆翡翠カップビーチボール全国大会 143チーム、689名 ◆全国学生ビーチボール交流大会 5チーム、27名	4,263
	ビーチボール振興支援事業	初心者を含むビーチボール教室開催支援 初心者向け大会開催支援	170
	ビーチボール普及活動	県内外へビーチボールの普及活動	—

②	スポーツ推進委員研修	地域のスポーツ指導者の育成・確保・活用を推進し、スポーツ推進委員の資質向上を図りました。	277
	スポーツ推進サポーター事業	スポーツサポーター登録制度を設け、スポーツを支える人材の発掘と育成を図りました。	29
③	スポーツ情報の提供	町のスポーツに関わる情報を広報あさひ及びケーブルTVを通じて伝えるとともに、スポーツ教室の情報をチラシの作成とともにHPに掲載しました。	—
④	子どもの体力向上推進事業	運動好きな子どもの育成と体力の向上、そのための教員等の指導力の向上を目指し、体育の授業「体づくり運動」に専門の講師を派遣するなどしました。 ◆学校体育活動サポート事業（小1～小4各クラス） ◆新体力テスト業者分析（小1～中3）	418
	スポーツ少年団・指導者の育成	スポーツに親しむ子供たちの育成のため、スポーツ少年団の組織、指導者の育成等の支援を行いました。 ◆スポーツ少年団 7団体 99名	100
⑤	朝日町型部活動コミュニティクラブ	朝日中学校部活動の一部を地域人材による地域クラブ活動へ移行するため、朝日町型部活動コミュニティクラブによる運営を行いました。	2,611

■成果と課題

① 地区体育大会（体育祭）は、8地区での実施、三世代交流スポーツ事業では、6地区で実施され、歩こう会やビーチボール教室、ウォークラリーなどが実施され、幼児から高齢者まで、世代を超えた交流が深まり、一体感や活力のある地域づくりが推進されました。

「スポーツの日」に広く町民が参加できるスポーツイベントとして開催しておりました、『まめなけ！あさひスポーツデー』については、富山GRNサンダーバーズから選手を招いた「ピッチング教室」のほか、ビーチボールや卓球、バドミントン、アーチェリー、モルック、ボッチャなどの体験コーナー、ダッシュ王などのチャレンジコーナー、体力測定など幅広い世代のスポーツ体験機会の場となりました。当日々1,000人の参加者が集まりました。

また、第41回全国ビーチボール競技大会は、229チーム、1,115名、第31回翡翠カップビーチボール全国大会は、143チーム、689名が参加し、ビーチボール競技を通してスポーツに親しむとともに交流を深めました。両大会は、長生施行70周年記念大会として開催したほか、町内店舗等でお得なサービスを受ける「あさひ特得サービス」の周知により町内での回遊性を高めました。なお、令和6年度学生ビーチボール交流大会については、5チームの申込があり準備ましたが、大会直前の台風接近によりやむなく中止といたしました。

ビーチボール振興支援事業として、初心者を含むビーチボール教室開催支援に2団体、初心者向け大会開催支援に3団体へ支援補助を行いました。

また、子どもから大人までスポーツに親しみ、運動に取り組む習慣づくりをねらいとした「にこにこスポーツ広場」や「いきいきスポーツサロン、「夏休み小中学生ビーチボール教室」を開催するなど、地域スポーツ教室として年間15回のべ419名が参加しました。

スポーツが日常の生活に定着するよう、今後も各種イベントやスポーツ教室の開催、支援に努め、健康スポーツを推進します。

② 指導者の育成については、指導者の資質向上を図るとともに、新たな指導者の発掘に努め、研修の機会を設けるなど、スポーツの環境整備により努めます。

- ③ スポーツ情報については、広報あさひ、ケーブルテレビ、町HPを活用し、各種大会、スポーツ教室の開催案内を行っており、今後も住民の皆さんのが興味・関心をもって主体的にスポーツ活動に取り組んでいただくように、情報発信の拡充に努めます。
- ④ 子供の体力向上については、運動好きな子どもの育成と体力の向上、そのための教員等の指導力の向上を目指し、小学校低・中学年の体育の授業において専門の講師を派遣し、体づくり運動を実施しています。また、平成30年度より町内の子供のスポーツ団体等に対し、体育施設利用料を無料とする支援を継続しており、積極的に体を動かすことができる環境づくりに努めました。
- ⑤ 少子化に伴い児童生徒が減少しており、今後も続くと考えられ、スポーツ少年団活動や学校部活動の運営が難しい状況になってきている朝日中学校では、生徒の部活動との多様な関わり方や教職員の超過勤務時間の削減を目指し、部活動の一部を地域人材による地域クラブ活動へ移行するため、関係機関とともに地域と連携した部活その活動を運営する朝日町型部活動コミュニティクラブを設立し、部活動の一部を地域クラブ活動として休日の1日、平日の1日～2日で活動を実施しています。

今年度は、運動クラブとして、卓球、剣道、柔道、陸上、ソフトテニス、バスケットボール、バレーボール、野球、また文化クラブとして、吹奏楽が活動しています。

2 競技スポーツの推進

■取組み概要

- ①ジュニア指導・選手の育成
- ②組織の育成

■主な事業実施状況

番号	施策又は事業名	事業内容等	決算額(千円)
①	各種全国大会などの出場選手の派遣奨励	全国大会等出場者に激励金の支給し、積極的に派遣奨励を行いました。 ◆全国大会等出場選手 63名	395
	青少年競技力向上支援事業	青少年の競技力向上を目指す事業への支援を行っています。 ◆実績なし	—
	大学合宿招聘事業	◆実施なし	—
②	スポーツ大会等の後援	競技力向上に向け、各種競技大会の後援を積極的に行いました。 ◆後援申請承認数 28事業	—
	町スポーツ協会) 活動補助金	競技スポーツ団体育成のため町スポーツ協会組織強化のための支援を行いました。	90

■成果と課題

- ① 競技力向上に向け、「町青少年競技力向上支援事業補助金」制度を活用し、今後もニーズに応じた講習会や教室等を開催、支援し、優秀選手の育成・強化に努めています。今年度は、活動実績はありませんでした。今後はこの支援事業の活用がされるよう、各競技協会へのPRに努めます。
- さらに町スポーツ協会、競技団体との連携をより強化し、積極的に大会の開催・誘致の支援を行い、これまで以上に小・中学生を中心に競技力向上への意欲を高めます。
- ② 町内で開催される各種スポーツ大会の後援及び町スポーツ協会)への活動補助を行い組織の育成を図りました。

3 スポーツ環境の整備

■取組み概要

- ①拠点施設の整備・拡充
②総合型地域スポーツクラブなどの支援

■主な事業実施状況

番号	施策又は事業名	事業内容等	決算額(千円)
①	体育施設管理事業	朝日町文化体育センター第1体育館改修工事やあさひヒスイ海岸パークゴルフ場暗渠排水工事などを行い、その他施設の定期的保守管理を行っています。 ◆サンリーナ施設利用者数 81,365名 ◆パークゴルフ場利用者数 18,881名 ◆キャンプ場利用者数 9,433名 ◆まちなか体育館利用者数 5,729名 ◆小丸山グラウンド利用者 一名	198,023
	学校体育施設開放事業	小学校2校、中学校1校において学校体育施設開放事業を行い、利用促進を図りました。 ◆12団体利用 ◆利用数：延べ422回 延べ6,628名	624
②	スポーツクラブ・サークル活動の支援(ひすいスポーツクラブ)	町民がいつでも、どこでも、体力やそれぞれのニーズに応じてスポーツに親しむことができるよう総合型地域スポーツクラブへ事業委託するなどの支援を行いました。 ◆子どもの運動能力向上事業 (キッズ&ジュニアコアトレーニング教室) 36回 526人 町内で活動するスポーツサークルなどをイベントや広報において紹介しました。	506

■成果と課題

① 体育施設をより安全で快適に利用していただけるよう計画的に老朽化した設備について更新工事を実施しました。小丸山グラウンドにおいては、定期的にグラウンド整地及び除草を実施し、維持管理に努めていますが、周辺の砂防工事により、今年度は、利用を制限していました。

朝日まちなか体育館は、スポーツ施設としての利用だけでなく、公民館事業での活用や、周辺施設と連携した事業等によるまちなかの活性化を目指し、町民が利用しやすい施設づくりに努めています。

学校体育施設開放事業は、それぞれ学校体育施設において町民の利用促進を図っています。学校開放の利用者は地区のスポーツ愛好者グループやスポーツ少年団などの団体で、さみさと小学校は9団体、あさひ野小学校は1団体、朝日中学校は2団体が利用されました。今後とも、引き続き学校や利用団体との連絡体制を保持し、町民が利用しやすい環境づくりに努めます。

② ひすいスポーツクラブでは、町民が手軽にスポーツに親しむことができる教室や事業を実施しています。クラブへのtoto助成や町の補助金が終了し、子ども向けの教室が減少傾向にあることから「子どもの体力向上」をめざす教室開催を委託し、支援しています。

今後も町民のスポーツニーズを把握するように努め、子どもから大人までの全世代における生涯スポーツの機会の場となるような取り組みの実施が図られるようクラブの教室や事業運営等に、適切な支援・助言をします。

V 文 化

■施策目標

人々の価値観が物の豊かさから心の豊かさへ変化している中、町民の芸術・文化活動の振興や支援を行い、文化の香り高い町づくりを進める。

1 芸術・文化施設の活用と充実

■取組み概要

- ①文化体育センター・ふるさと美術館の活用
- ②美術作品の収集
- ③不動堂周辺施設再生構想

■主な事業実施状況

番号	施策又は事業名	事業内容等	決算額(千円)
①	芸術・文化施設の活用	<p>ふるさと美術館 郷土出身の芸術家の作品をはじめとして、郷土にゆかりの深い芸術を中心に、優れた美術作品を紹介しています。</p> <ul style="list-style-type: none">◆観覧者数 9,434人◆ギャラリースペース、体験教室の活用 (個展、研修等の利用提供)歴史公園・川上家◆観覧者数 2,509人 (川上家)	4,481
	常設展・企画展・特別展	<p>芸術文化の拠点であるふるさと美術館では、館蔵展、特別展、郷土作家展等を開催して町民の芸術鑑賞機会の充実を図りました。</p> <ul style="list-style-type: none">◆特別展スーパー ジュニアアーティスト 千葉心花 (Conoca) 個展 [C.C.summer 2024]◆企画展<ul style="list-style-type: none">・「ラクダのコブは3つまで?」竹内萌美インドの世界写真・映像展・鹿嶋神社伝承 [I 竜宮への道 [II 鹿嶋神社稚児舞] 展・あさひ写友クラブ「桜」写真展◆郷土作家企画展<ul style="list-style-type: none">・【赤川焼】野村彰・東渉一親子作陶展・【うつろいの葉幻】善田優子 日本画展・藤田志津香・松島智子・坂本秀嵐 3人展◆郷土作家企画展 追悼湯口敏明展 2/9~3/31	2,791
②	美術作品の収集	<p>次の作品 8点の寄贈がありました。</p> <ul style="list-style-type: none">・善田優子 日本画 1点・橋本文良 油彩 6点・中嶋外志男 木彫 1点	—
③	不動堂周辺施設再生構想	令和5年度に不動堂周辺施設において、美術散策と歴史めぐりゾーンを形成するため、新美術館改修工事が完了しました。	—

■成果と課題

- ① 文化施設の活用について、ふるさと美術館では、町内の保育所園児や小・中学生に年間を通じて同伴者1名も無料で美術館に来館できる「子どもパスポート事業」を実施することで、美術館の利用増進を図り、住民の芸術に触れる機会を増やすことに努めました。令和7年度からの観覧料を子供無料とするため条例改正を行いました。また、住民・子ども課所管事業である「孫とおでかけ事業」との連携により、施設のPRを広げ、県内外からの利用者増に努めました。今後も、地域に密着した施設としての活用を図ることが必要であり、文化・芸術の振興を推し進めるためにも、商工観光課所管などと連携を取りながら、施設の活用効果のより一層の充実を図っていきます。
- ② 芸術振興の充実のため、郷土ゆかりの作家などの作品収集に努めるとともに、収蔵品の適正な管理に努めます。
- ③ 令和5年7月から新「ふるさと美術館」が開館しました。同年に歴史公園と川上家の管理が商工観光課から教育委員会事務局に移管されたことから、今後、近隣の歴史公園、不動堂遺跡とともに不動堂周辺を文化・歴史ゾーンとして集客と情報発信を図ることに努めます。

2 芸術・文化活動の促進

■取組み概要

- ①芸術・文化サークル・団体の育成
- ②講座・美術展の開催
- ③芸術・文化情報の提供

■主な事業実施状況

番号	施策又は事業名	事業内容等	決算額(千円)
①	朝日町美術展	町の芸術・文化の活性化を図るために、公募による第38回美術展及び小・中学校美術展をふるさと美術館で開催しました。 ◆11月2日～11月17日（16日間） ◆部門 「絵画」「写真」「書」「彫刻・工芸・デザイン」 ◆出品数 125点 ◆入場者数 1,551人	960
②	講演会・美術展等の後援	芸術団体等の講演会・美術展等の後援を行いました。 ◆後援申請承認数 28事業	—
③	芸術・文化情報の提供	町の芸術・文化に関する情報を広報あさひ、ホームページ、SNS、チラシ等にて行っています。	—

■成果と課題

- ①② 文化的香り高い町の実現のためには、町内の文化サークル・団体の活動を積極的に支援することが大切です。45回目となる朝日町美術展には125点の出品、1,551名の来場者がありました。また、小・中学校美術展を同時開催し、連帯化を図りました。

③ 町の芸術・文化情報については、マスコミや広報あさひ、ケーブルテレビなどを活用し開催の周知を図っており、今後も芸術・文化情報を提供していきます。

3 文化的保護と活用

■取組み概要

- ①埋蔵文化財などの公開と施設整備の充実
- ②文化財の調査・研究・保護・継承
- ③文化財の保存・活用

■主な事業実施状況

番号	施策又は事業名	事業内容等	決算額(千円)
①	埋蔵文化財保存活用施設運営事業	<p>朝日町埋蔵文化財保存活用施設「まいぶんKAN」では、朝日町で出土した土器、石器や農山漁村で使用された民具、下山新遺跡、境A遺跡、柳田遺跡等で出土した遺物の常設展示や、特別展示、各種イベントを開催するとともに、通常体験として、勾玉作り・土器作り・火起しなどの体験教室を行いました。</p> <p>大規模修繕工事のため9月2日から3月末まで休館しましたが、その間も県の連携展への出品や町内ふるさと科などの教室を実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none">◆館蔵品展 4月～9月◆企画展 明治記念館下張り文書からわかる庶民の暮らし 5月～9月◆特別展 不動堂遺跡国指定50周年記念—国史跡不動堂遺跡物語 7月～9月◆県埋蔵文化財センター市町村連携展 2月～4月◆通常体験 勾玉作り、土器作り、あじろ編み等 4月～9月 <p>明治記念館下張り文書はがし 5月</p> <ul style="list-style-type: none">◆あさひ野小学校・さみさと小学校出前授業 6月・2月・3月◆講演会 7/27◆展示解説会 12回 7月～9月◆縄文バスツアー 8/3◆特別体験 夏休み自由研究応援土器作り 8/4◆朝日中学校出前授業 10月◆文化財巡り 11/9◆利用者数 1,255人 <p>まいぶんKAN改修工事（防水、外壁、内装、空調）</p>	95,537

②	文化財の管理・保護	文化財の管理・保護事業として次の事業を実施しました。 ・指定文化財所有者への文化財保護管理交付金の交付 29件 ・指定史跡の草刈、清掃 ・不動堂遺跡管理 復元住居建物薰蒸、周辺立木剪定、芝刈り等 ・歴史公園管理	5,812
	文化財の調査	・試掘等調査	143
③	あさひ芸能文化祭	朝日町の芸能・文化団体が、アゼリアホールに一堂に会し日頃の練習成果を発表しました。 ◆実施日 11月10日 ◆出演者数 15団体 観覧者数 608人	425
	文化財の保存・活用	文化財の保存・活用として次の事業を実施しました。 ・ふるさと科の学習として、不動堂遺跡の見学実施	—

■成果と課題

- ① 埋蔵文化財保存活用施設「まいぶんKAN」運営については、大規模修繕工事のため9月以降休館しましたが、その間も県の連携展への出品や町内「ふるさと科」や「みんなまなび」など、文化財の理解啓発、振興のため、活動を続けました。開館中は常設展示のほか、特別展 「不動堂遺跡国指定50周年記念—国史跡不動堂遺跡物語」、「明治記念館下張り文書からわかる庶民の暮らし—灰付けわかめと干しそんまい」を行いました。また、講演会や勾玉つくりなどの古代体験やバースツアーなどを実施し、利用者の増加に努めました。明治記念館下張り文書調査から灰付けわかめの起源に関する古文書を新発見し、報道発表を行いました。令和7年度にリニューアルオープンすることから、今後も新たな企画展や体験メニューを企画するなど内容の充実を図るとともに、広報やホームページなどを通じて情報提供を盛んにして、利用者の増加に努めていきます。
- ② 文化財の管理・保護については、町指定文化財保護交付金の交付、不動堂遺跡公園の保全・修繕などを実施しました。
- ③ あさひ芸能文化祭は、町内の伝統文化を継承する団体や芸能サークル等の団体が一堂に会し、日頃の活動の成果を発表する場として多くの住民の来場をいただいており、今後も新規団体の発掘や観客数増員も含めて、広報やケーブルテレビなどを積極的に活用していきます。
- 県から移譲された境A遺跡出土品の中から重要な価値のある182点の町指定文化財や、富山県埋蔵文化財センターと協力し、貴重な境A遺跡国重要文化財の展覧会を開催しました。
- また、ふるさと科の学習として不動堂遺跡を見学しました。今後も文化財の活用に努めています。

4 学識経験者意見

○家庭・地域教育

意見なし

○学校教育

保小中一貫教育の推進

- ・保小中一貫教育の推進については、ジョイント期間を設けて、小1プロブレム、中1ギャップの解消を図るため、教員の乗り入れ指導や保小中合同音楽会、小学校6年生による中学校体験入学の実施など、切れ目のない連続した指導が効果的に行われている。

リーディング DX スクールパイロット事業

- ・リーディング DX スクールパイロット事業については、5年度、「文科省のリーディング DXスクール」の指定を受け、さらに、6年度は富山県で初めて「生成AIのパイロット校」にも指定され、「つくば市教委」「富山大学」「ソフトバンク」といった産官学連携のICT活用による「業務改善」「授業改善」「不登校支援」「働き方改革」などで、様々な先進的な取組がなされ、パイロット事業として、大変有意義な事業となっている。

不登校対策について

- ・「不登校対策」については、すべての小中学校に「朝日町校内教育支援センター」(ココ・カラ)を設置し学びの場を確保するとともに、「オンラインによる健康観察」や「心の悩み相談」にも対応し、子供の小さなSOSを見逃さないよう問題の早期発見、早期解決につながる体制となっている。また、不登校が過去最高となっている状況を踏まえ、「スクールカウンセラー」の配置拡充など、教育環境を整えていくよう、引き続き、県に求めていくことが必要である。

- ・県が採用⇒市町村に派遣(人件費、県2/3国1/3)
- ・R5全小中学校 250校に配置(臨床心理士、公認心理士等の資格者が多い。)
- ・各校への訪問が多くて週2回、週1回や隔週の学校もある。
- ・勤務時間2~3時間だと面談だけで終わる。
- ・教員との情報共有がままならない。週8時間ぐらい必要
- ・県内不登校の状況(2024年=小1,106人、中1,518件)
- ・全国35万人(過去最多)内13万人、38%が専門的支援をうけていない。

- ・以前は教員が不登校児童生徒の自宅へ訪問に行っていたが、今はスクールカウンセラーが自宅まで訪問してくれている。教員が授業に取り組む時間がしっかりと確保できており、教員の働き方改革につながっていて、素晴らしい。

- ・ココ・カラや相談室などの整備がされており素晴らしい環境である。保護者も安心して学校に預けることができる。

業務改善について

- ・生成AIを活用した業務改善については、「テスト作成のたたき台」「あいさつ文のたたき台」「歌唱指導の計画」「保健だよりのたたき台」などに活用し、学校現場では、労力と時間の削減に大きくつながっているとの評価を得ており、働き方改革の中心になるものと思われる。

授業改善について

- ・生成AIを活用した中学校英語の公開授業では、生徒は自分自身の力に応じて、スピードや内容を変えたり、繰り返したりと、自己調整しながら学習が進められており、70%の生徒が「話すこと・聞くこと」の成果を実感したとしている。今後の様々な授業改善に生

成AIを活用していくためのステップとして、また、貴重なパイロット事業の成果として捉えることができる。

- ・教育はマンパワーである。様々な配慮をされているのは素晴らしいと思う。AIを使った最先端の授業も素晴らしいが、子供たちとの心の触れ合いができるマンパワーも整備されている。AIを活用した最先端の授業と、心を養うソフト面の教育が両立していて良いと思う。

学校生活について

- ・多種多様な考え方の子供たちがいることに対して、スタディ・メイトやスクールカウンセラー、スクールサポートスタッフといった方々が多く配置され、素晴らしい。朝日町は一步進んでいると思う。

○生涯学習

- ・学校の図書室の環境も素晴らしい。本を読みたくなるような展示の仕方、ポップの活用など、子供たちが読書に親しむという環境を作っているのは素晴らしい。図書館司書の役割が大きいと思う。図書委員会がポップを作成しているが、私自身も読みたいと思うほどである。町の図書館も素晴らしいが、子供の読書離れが懸念される中、学校の図書室がこのように変わることで、読書がしたくなる子供が増えるのではないか。子供の心を豊かにする1つであると思う。

○スポーツ

- ・夢の教室について、今、体を動かさない子供たちもいると聞くが、プロサッカー選手やプロバスケットボール選手たちの話を聞くと、ああいう風になりたい、と思う児童が増えるかもしれない。素晴らしい事業だと思う。
- ・にこにこスポーツ広場は子供たちがスポーツをする入口として、一番楽しく入ってこられる行事ではないかと思う。今後も継続しておこなっていただきたい。
- ・ビーチボールが少し下火とまでは行かないが、並行線を辿っているように感じる。裾野を広げていっていただきたい。

○文化

- ・まいぶんKANに行ってきたが素晴らしかった。